

気管支喘息に対するMS－アンチゲン吸入療法 － 安全性の検討 －

群馬大学医学部 第一内科

若松 秀, 須永吉信, 笛木隆三
小林節雄

入江らはモルモットの実験的アレルギー喘息が、MS－アンチゲンの吸入によって抑制されることを示した。我々はヒト喘息患者にMS－アンチゲン吸入療法を応用する目的で、まず安全性の検討を行った。

1. 対象：健康人3名
2. 方法：第1日 MS－アンチゲン 40 mgを注射用蒸留水 2 mlで溶解しオムロンネブライザー（NE－C10）を用い吸入。その後7時間自覚症状、血圧、脈拍、胸部理学的所見、肺機能を観察。
第2日より7日まで（6日間）1日2回同様に40mgを自宅で吸入、自覚症状とPEFR（1日2回）を調査表に記入。
第8日より14日までは無処置。
第15日 MSアンチゲン40mgを吸入させ、第1日と同様に観察。

3. 観察項目

- 1) MS－アンチゲン皮内反応
第1日および15日施行
- 2) 肺機能検査
第1日および第15日 FVC, FEV_{1.0}, PEFR
第2日より第7日 PEFR（mini-wright peak flow metor）

3) 血液検査

血算（血液像）、IgE、総タンパク、ビリルビン、GOT、GPT、LDH、ALP、BUN、総コレステロール、Na、K、Cl、以上検査前、第8日、第15日に施行

4. 結果

以上すべての検査項目において、吸入療法施行前、中、後において変化は見られなかった。また特記すべき自覚症状、理学的所見もなかった。

現在我々は、気管支喘息患者にMS－アンチゲン吸入療法を行い、喘息症状および気道過敏性の変化を検討中である。